

失格チームがなくなることを期待します。  
成績は次のとおりです。

◎ 男子の部

- 1位 修真武会(学 外)
- 2位 RUN & RUN A(法・経二部)
- 3位 広島スーパースターズ(学 外)
- 4位 FM会 A(工学部)
- 5位 RUN & RUN OB(学 外)
- 6位 チーム苦勞汗(スキー部)
- 7位 広島大学 OLC(OL 部)
- 8位 俊足友の会(庭球部)
- 9位 修道中・高ワングルC(学 外)
- 10位 はしる茂平”S(医学部陸上部)

◎ 女子の部

- 1位 体育会バレー部女子A(バレーボール部)
- 2位 体育会バレー部女子B(バレーボール部)
- 3位 コートの悪魔(庭球部)
- 4位 緑翠 A(生物生産学部)
- 5位 カモシカ軍団パートV(医学部庭球部)



フェニックス駅伝

—それぞれのチームのドラマのあかし—

総合科学部学生 金 沢 光 博

大きな輪。小さな輪。

赤。紅。ピンク。

几帳面にアイロンのかかったものも、最初からやる気をなくさせるような、埃にまみれたものも、結局は湿り気を帯びて忘れ去られているもの。

始まりも終わりもない糸っきれ。<sup>たすき</sup>襷。

我が薫風ピストンズの襷は前日に染めた、少々ピンク気味のものでした。中継地点で手渡され、次の走者へと渡すまでの、ほんの数十分が、僕と襷の係る時。丸めて、汗拭き代わりにして走った。後ろに足音が追ってきて慌てたり、信号待ちでいら立ったりして、こう慌ただしい時だけれども、それでも、ただ足を前にすすめることだけを考えてしまっているような時、こうして襷についてあれこれと思索してしまったりもするわけです。



こうして考えてみると、今年も、襷の数だけの展開があったはず。です。

今年は我がチームは50位の跳び賞というおまけのついた展開を作りました。来年はどんな展開があるのかわかりませんが、何らかの手ごたえを求めて、また出場したいです。